



みやまえ Miyamae

滑川町立宮前小学校 学校だより

春休み号 令和 3年 3月26日

電話 0493-56-2204 FAX 0493-56-2065

一隅を照らす人

皆さんは、素晴らしい子どもたちでした。

地域の人たちにしっかり丁寧なあいさつができる子。毎朝、登校時、励ましながら小さな1年生を学校に誘ってくれる子。学校やみんなのためにと委員会活動や係活動に勤しむ子。真剣な眼差しで授業に臨み、調べたり自分で考えたりしたことを発表する子。その発表に賞賛の拍手を送る子。悲しい思いをしている友に手を差し伸べる子。ピアノのオーデションに落選しても次のチャンスに素晴らしい演奏ができる子。心配してくれた人に感謝できる子。自分のためでなく、人のために時間を使いたいと言える子、そして迷い人の情報提供を呼び掛けるチラシをつくってくれた子…皆さんの素晴らしさは枚挙にいとまがありません。



そんな皆さんだから、コロナ禍で様々な制約がある中でも、感動の運動会、最高の思い出となった修学旅行を創り上げることができたのだと思います。

ご両親にとって皆さんは自慢の子どもだと思っています。

この宮前小学校からこんなに立派な皆さんを送り出すことができることに、私も、先生方もとても誇らしく思っています。

この3年、私は、お話しタイムや行事などで、考え方や生き方などいろいろとお話ししてきました。今日がよいよ最後となりました。まとめの話をします。



1つ目は、「何になりたいかよりどんな人間になりたいかを考える人になってほしい」ということです。

とても楽しかった皆さんとのふれあい給食で、「将来の夢はなんですか」と質問しました。杉田陽紀さんが「職業のイメージは持ってないですが、優しい人になりたいです」と応えてくれました。また、野澤琉衣さんは、「しゃべれない動物の気持ちがわかる獣医になりたい。動物の家族を悲しませないためには勉強するしかない」外川稟ノ音さんは、「みんなを笑顔にするパティシエールになりたい」矢島夏凧さんは、「陰で人の役に立つ科学者になりたい。科学の力でこまっている子どもたちを救いたい」と発言しています。

これらの発言から「何になるかより、どんな人間になりたいかを考えるべきだ」ということがわかると思います。何になりたいかとは、どんな職業に就きたいかということです。しかし、残念ながらこれになれたら成功、幸せなどという職業は存在しません。「皆を笑顔に」「人の役に立つために」の姿勢で働くことができる人は、どんな職業についてもきっと成功すると思うのです。



2つ目は、「人生を決めるのはその人の持つ運や才能ではなく、習慣だ」ということです。

コロナ禍で徹底した衛生行動が求められています。煩わしいと思いますが、例年流行するインフルエンザの罹患者はほとんど見られません。衛生行動が身に付けば、未知の新たな感染症の予防になります。

同様に、ものの見方や考え方の習慣が大切だと思うのです。相手の幸せを願う習慣、上手くいかないことを人のせいにならない習慣、感謝の気持ちを持つ習慣、相手を気遣う習慣を持つ人は、きっと素敵な人生を手に入れることとなるでしょう。

ものの見方や考え方、自分の生き方に決定的な影響を与えるような人物に出会うことは滅多にあるものではありません。でも、魂が震えるほどの人物に本の中では、いとも簡単に会うことができます。読書の習慣もまた人生を決めるものだと言えましょう。

3つ目は、「一隅を照らす人になってほしい」ということです。

いろいろなお話をしてきましたが、「最も印象に残っているのは中村哲さんのお話です」と言う児童が多いです。アフガニスタンで医師としてできることを精一杯頑張ってきた中村哲さんは、「一隅を照らす」という言葉が好きでした。

一隅とは片隅のこと。もしかしたら、あまり目立たない場所かもしれません。「照らす」とは「光をあてて明るくする」こと。となりの困っている人のためにやさしく力になってあげることで、あなたも、まわりの人も明るい気持ちになっていくでしょう。「自分が今いる場所で、自分にできることをいっしょうけんめいやりましょう」「一隅を照てらす」にはそんなメッセージが込められています。「どんな人間になりたいかを考える人」「良い習慣を持つ人」は、きっと一隅を照らす人になれます。みなさんなら間違いなくなれます。そんな皆さんがつくる社会は、きっと明るい社会になることでしょう。

結びに、宮前小学校を巣立つ78名の卒業生の皆さんの中学校での御活躍、前途に幸多からんことを心からお祈り申し上げ式辞といたします。

「敷島の 倭(やまと)の国は言霊の たすくる国ぞ 真福(まさき)くありこそ」(柿本人麻呂)

(日本の国は言葉に魂が宿ると信じられています。言葉の力が助けてくれます。だから私が言葉にします。どうかご無事で・・・)

(卒業式式辞より)

生野正樹さん ヴィオラ演

3月5日(金)本町在住の生野正樹(しょうの まさき)さんのヴィオラ演奏会が6年生を対象に実施されました。生野さんは、国際コンクールで入賞歴をお持ちで天皇陛下ご即位をお祝いする国民祭典でソロ演奏されたこともあるプロのヴィオラ奏者です。全国での演奏活動でお忙しい中、生野さんのご厚意で演奏会が実現しました。

「星に願いを」(伴奏:豊田奈桜さん)「ハンガリー舞曲」(吉川和希さん)「アベマリア」(荻原希実さん)「紅蓮華」(小山友愛さん)「夜に駆ける」(森美優さん)の5曲を演奏していただきました。卒業を間近に控えた6年生は、ピアノ伴奏とヴィオラの素晴らしい演奏に聞き入り感動していました。また、演奏後、生野さんから、バッハ、モーツァルト、ベートーヴェンなどの音楽の歴史についてのお話がありました。また、児童からの質問コーナーを設けていただきました。「葉加瀬太郎さんの情熱大陸を弾けますか」の質問には、「葉加瀬太郎さんと共演しています」と答えていただきました。生野さんから「自分が好きなことを真剣に研究することが大切です」というお話もあり6年生は興味深く聞いていました。最後は、退場する6年生をヴィオラ演奏で見送っていただきました。6年生にとって思い出に残る演奏会となりました。生野正樹さん、本当にありがとうございました。

